



「竜」をめぐる人文地理学及び生態地理学による比較研究：ドイツ・バイロイトにおける「ノトサウルス」発掘とゲルマン・ジークフリート伝説の「交点」から

川西, 孝男

(Citation)

人文地理学会2018年大会:72-73

(Issue Date)

2018-11-25

(Resource Type)

conference object

(Version)

Accepted Manuscript

(Rights)

ここに掲載した著作物の利用に関する注意:著作物の著作権は人文地理学会に帰属します。本著作物は著作権者である人文地理学会の許可のもとに掲載するものです。ご利用に当たっては”著作権法”に従うことをお願いいたします。

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90005419>



「竜」をめぐる人文地理学及び生態地理学による比較研究
——ドイツ・バイロイトにおける「ノトサウルス」発掘とゲルマン・ジークフリート
伝説の「交点」から——

**A Comparative Study about Dragon and Dinosaurs using Human and Ecological
Geography: from the intersection point of discovery of Nothosaurus and the
Germanic-Siegfried Legend in Bayreuth, Germany**

川西 孝男（関西学院大学・博士研究員）

KAWANISHI Takao (Ph. D. Fellow, Kwansei Gakuin University)

キーワード：竜、恐竜、ゲルマン・ジークフリート伝説、ノトサウルス、Gミュンスター、バイロイト、ビンドラッハ、
オッシュェンベルク、人文地理学、生態地理学、「ニーベルンゲンの歌」、R.ヴァーグナー「ニーベルングの指輪」

Keywords : Dragon, Dinosaur, Germanic-Siegfried Legend, Nothosaurus, G. Münster, Bayreuth, Bindlach, Oschenberg,
Human Geography, Ecological Geography, Das Nibelungenlied, Richard Wagner: Der Ring des Nibelungen,

はじめに

「竜」は宗教そして想像の世界において悪魔の手先そして破壊者などといった「人類」に恐怖をもたらす人文学上の産物である。特に一神教下においては神に敵対し打ち倒されるべきものとされる。またこういった恐怖や憎悪が為政者によって度々、戦争プロパガンダ化されており、敵を悪魔に見立てた「竜退治」を口実に人類が二度の世界大戦そして大量破壊兵器による絶滅の危機に引きずり込まれて以降、未だ1世紀すら経過していない。

一方で、生態学における「竜(恐竜)」は、人類の誕生以前に「実在」し、その後「絶滅」しており、しかも今日の人類のように地球上の支配的地位にあったことは注目される。またその「支配地」たる地球の表層は、今日とは大きく異なることが生態地理学や考古学から明らかにされており、静的な地表の諸現象を扱ってきた地理学的視点も地球史の中においては変動を免れ得ないことを示している。

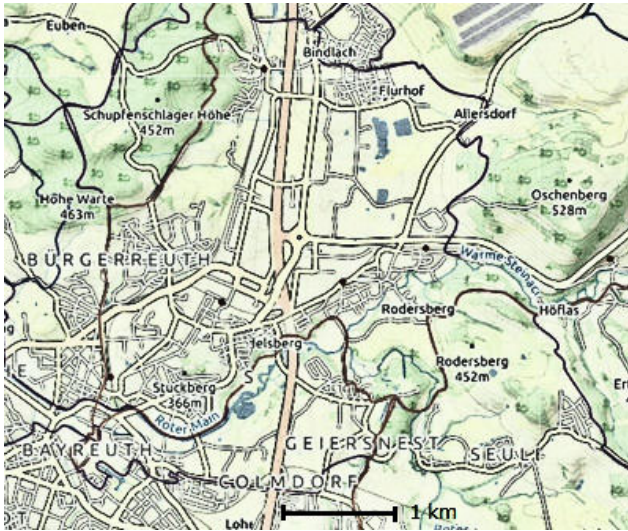
本論は、この「竜」に焦点を当て、ゲルマンの英雄ジークフリートによる竜退治そしてアーサー王の聖杯探求といった伝説に関わりが深く、また第二次世界大戦期にゲルマン民族主義の精神的支柱とされたドイツ・バイロイトにおいて、その近郊ビンドラッハBindlachのオッシュェンベルクOschenberg山中で1834年にプロイセン官吏兼博物学者であったG. ミュンスター(1776-1844)によって発掘された「ノトサウルス Nothosaurus」(三畳紀に生息、「偽竜」、「幻竜」とも呼称、陸海両生、体長約4メートル)について、バイロイトの地理・生態系について恐竜時代から今日にまでさかのぼりながら、想像上そして実在した「竜」と人類との「交点」を生態地理学そして人文地理学のアプローチから考察する。



第1図 Der Ring der Nibelungen (M. Echter)



第2図 バイロイト祝祭劇場(音楽祭開催時、「ジークフリート」幕間、筆者撮影)



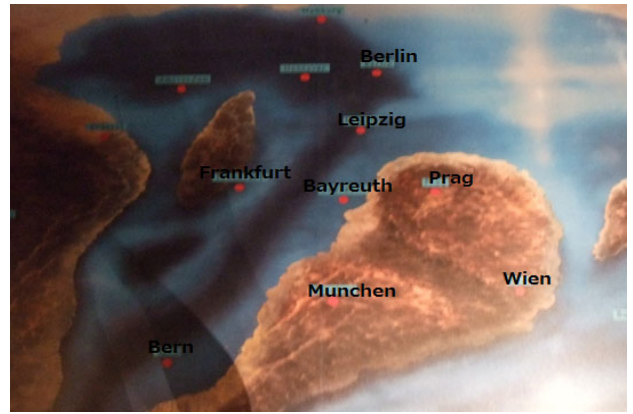
第3図 パイロイト、オッシェンベルク周辺 (一部筆者編集)



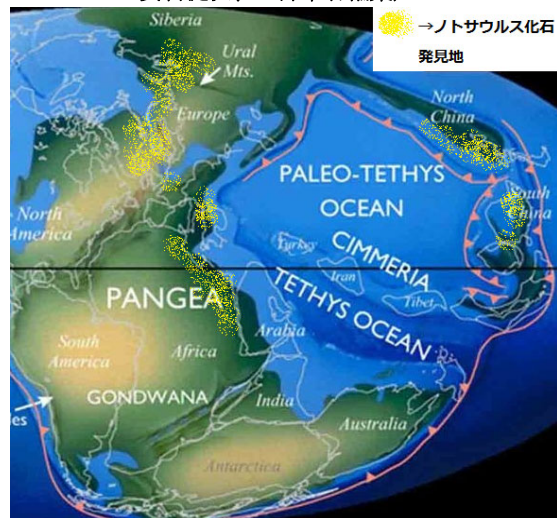
第4図 Nothosaurus Mirabilis(Urwelt Museum Oberfranken, Bayreuth 筆者撮影)



第5図 Image of Nothosaurus (Urwelt Museum Oberfranken, Bayreuth、筆者撮影)



第6図 三畳紀のドイツ・パイロイト周辺(Urwelt Museum Oberfranken資料提供、一部筆者編集)



第7図 三畳紀の地表とノトサウルス化石発見地からの生息地帯 (推定イメージ、一部筆者編集)



第8図 Oschenberg from Bayreuth(標高約500m、筆者撮影)

<主要な研究協力交流機関>

Urwelt Museum Oberfranken, Germany

Historischer Verein für Oberfranken e.V

Bayerische Staatsbibliothek

Bayerische Verwaltung der staatlichen Schlösser, Gärten und Seen

京都大学人文科学研究所

<主要参考文献>

Hermann Meyer, *Saurier des Muschelkalkes*, Frankfurt am Main, 1855

Ernst Probst, *Deutschland in der Urzeit*, Bertelsmann Verlag, 1999

Rainer Trübsbach, *Geschichte der Stadt Bayreuth*. 1194–1994. Druckhaus Bayreuth, 1993

Joachim Heinzle, *Das Nibelungenlied*, Ulm, 2015

川西、『聖杯騎士伝説の研究』、関西学院大学出版会、2016